

Eco Report 2006

2005年度 環境報告書



コカ・コーラウエストジャパングループ



CONTENTS 《目次》

- 目次、編集方針、報告対象会社概要 ————— 1
- 私たちの基本理念 私たちの行動指針 ————— 2
- ごあいさつ ————— 3
- CCWJグループと社会とのかかわり ————— 5
- 子どもたちに自然の大切さを伝える — 7
- 自動販売機による地域社会への貢献 ————— 9
- 環境経営を支えるしくみ ————— 11
- CCWJグループの環境負荷と環境保全活動 ————— 13
- 温室効果ガス削減 ————— 15
- 空容器のリサイクル ————— 19
- ゼロエミッションへの取り組み ————— 21
- 自然に返す水をきれいに — 23
- 地域貢献活動の推進 ————— 25
- 環境会計 ————— 27
- 独立第三者の審査報告書 — 29
- 環境パフォーマンス指標算定基準・環境会計指標算定基準 環境保全活動への取り組み ————— 30
- 「CCWJの森」の創設

編集方針

「Eco Report 2006」は、以下の方針に基づいて編集しています。

ココ・コーラウエストジャパン (CCWJ) グループ14社 (CCWJ、子会社12社、関連会社1社) のうち下記9社の2005年度における環境に対する取り組みを、具体的な企業活動に即して簡潔に分かりやすくご紹介しています。

- 対象期間
2005年1月1日～2005年12月31日
- 参考にしたガイドライン
環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」
- 発行
2006年3月 (次回発行は2007年3月を予定しています)

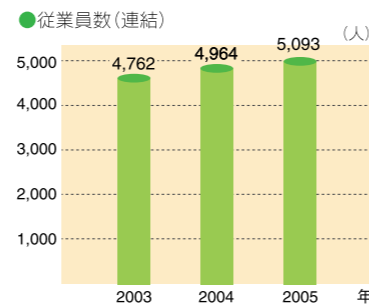
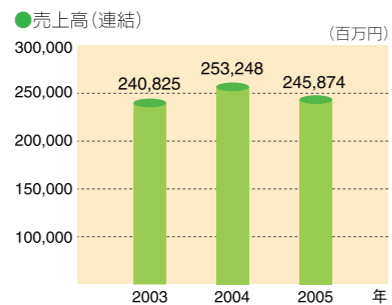


表紙のJ-AOEIマークは、当該環境報告書に記載された環境情報の信頼性に関し、日本環境情報審査協会の定めた環境報告書審査・登録マーク付与基準を満たしていることを示すものです。

報告対象会社概要(2005年12月31日現在)

	CCWJ	ピバレッジ	プロダクツ	ペンディング	カスタマー	ロジスティクス	ニチベイ	鷹正宗	WJS
本社所在地	福岡市東区箱崎七丁目9番66号	福岡市東区箱崎五丁目1番6号	佐賀県鳥栖市轟町二本松1670-2	福岡市東区松田二丁目2番32号	福岡県古賀市谷山871番地	広島市中区東千田町二丁目11番20号	佐賀県鳥栖市藤木町字若桜6番9号	福岡県久留米市大善寺町黒田297番地	福岡市東区箱崎七丁目9番66号
主な事業内容	ココ・コーラ、スプライト、ファンタ、およびジョージア等の飲料の製造・販売	飲料の販売	飲料の製造	自動販売機オペレーション業務	自動販売機関連事業	貨物自動車運送業	食品の加工	酒類の製造・販売	保険代理業、リース業、不動産関連事業

- CCWJ: コカ・コーラウエストジャパン株式会社
- ピバレッジ: 西日本ピバレッジ株式会社
- プロダクツ: コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社
- ペンディング: コカ・コーラウエストジャパンペンディング株式会社
- カスタマー: コカ・コーラウエストジャパンカスタマーサービス株式会社
- ロジスティクス: コカ・コーラウエストジャパンロジスティクス株式会社
- ニチベイ: 株式会社ニチベイ
- 鷹正宗: 鷹正宗株式会社
- WJS: ウエストジャパンサービス株式会社



※売上高、従業員数はCCWJグループ14社を対象としています。

Eco Report 2006

環境好感度No.1企業へ

私たちの基本理念

ココ・コーラウエストジャパングループは、責任ある企業市民としての自覚のもとに、人間・社会・自然の調和を常に大切にしながら事業活動を推進します。海と山に囲まれた自然豊かな中国・北部九州地区で清涼飲料の製造・販売と、それにかかわる各種事業を行う私たちは、環境美化・環境保全・資源のリサイクルに努めることがお客さまや地域社会に対する責務と認識しています。全社員がそれぞれの職場で自ら責任を持ち、安心して暮らせる豊かな社会の実現に貢献します。

私たちの行動指針

- 1 クリーンで安全な商品・サービスを提供します。
- 2 エネルギー使用の効率化を推進し、地球温暖化を防止します。
- 3 水を有効に活用し、水資源の保護に努めます。
- 4 廃棄物の削減・リサイクルに努め、循環型社会の実現に貢献します。
- 5 環境保全・資源のリサイクルに優れた資材の購入に努めます。
- 6 地域における環境活動に積極的に取り組みます。
- 7 環境教育・広報活動を通じ、人材の育成に努めます。



代表取締役
社長兼CEO 末吉紀雄

企業市民としての責務

コカ・コーラウエストジャパン(CCWJ)グループは、事業活動を行う上で、地球からの恵みである水や多様な資源、エネルギーを利用する一方で、温室効果ガスや廃棄物の排出など、さまざまな環境負荷を発生させています。これらの環境負荷を削減することは企業として当然の責務であるとともに、経営上の最重要課題と認識しています。このような考えから、より高い倫理観をもって、環境保全に向けた行動を全社員とともに実行し、また、経営資源の適切な配分も実践してきました。

全員参加で環境活動推進

2004年度には温室効果ガス削減計画を策定し、「2007年度までに総量で2000年度比20%削減、原単位で同45%削減」という目標を自らに課しました。この目標に向け生産部門では、社員の高

いスキルをもとにボトラーでトップクラスの生産効率を実現しています。営業部門では、環境配慮型自動販売機の積極的な導入や、エコドライブ活動を推進しています。

その結果、2005年度は、各部門での取り組みが進んだものの、生産品種構成や自動販売機の更新台数などが当初の計画と大幅に相違したため、2000年度比総量9%削減、原単位同32%削減とわずかながら目標には到達しませんでした。2006年度からスタートする中期経営計画には新たな施策を織り込み、温室効果ガス削減目標を達成するため取り組みを加速させます。

また、清涼飲料メーカーとして限りある資源を有効に活用するために、飲用後の空容器を回収し、自社の「北九州さわやかリサイクルセンター」において再資源化を行っています。「環境共生都市」である福岡市のアイランドシティにおいて

は、販売から回収・リサイクルまでCCWJグループが一括して行うことで、循環型社会にふさわしい街づくりに寄与していきます。

これらの環境保全活動の原動力となるのは、全員参加型の環境推進体制です。グループ8社でISO14001の認証取得が完了した環境マネジメントシステムと、独自の環境表彰制度を連携させ、効果的に機能させることで、自ら考え行動するという意識が社員に浸透しつつあります。

みなさまに愛される企業へ

中国地区・北部九州地区のみなさまに支持され、事業を行っている私どもは、当社独自の「地域環境対策積立金」を活用したさまざまな地域貢献活動を行っています。その中心となる活動として、子どもたちへ自然の大切さを伝えていくために学校ピオトープづくりを支援しています。現在までに30校でピオトープが

完成し、その集大成として2005年10月にはピオトープフォーラムを開催しました。子どもたちからは「自然の大切さを知りました」という声が多く寄せられており、私どもの思いが次世代を担う子どもたちに定着していることを実感します。

地域への貢献には、自動販売機もその一翼を担っています。CCWJグループが考案した、自動販売機の売上の一部を地域の事業やイベントなどの活動資金として還元する「支援自動販売機」は2005年末時点において累計で400台が設置され、地域の活性化をサポートしています。さらに新たな貢献策として災害対応型自動販売機の導入を推進しています。災害情報や避難場所を電光掲示し、飲料を提供することで大地震などの重大災害時に被災地の方々に支援いたします。

地域社会の発展とともに

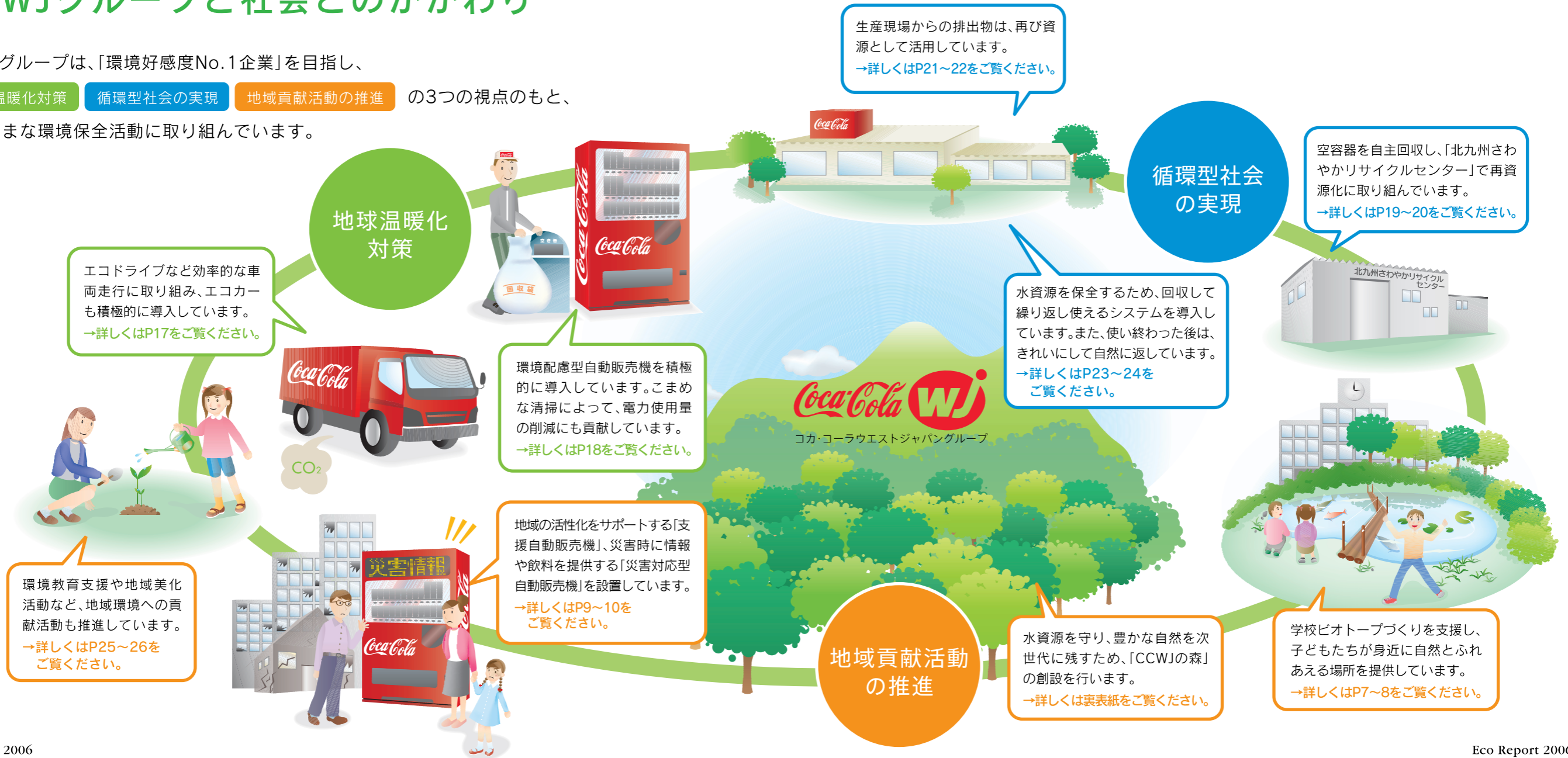
CCWJグループが行う地球温暖化対策や循環型社会実現のための取り組み、地域貢献活動を深化させるために、2006年に「CCWJの森」を創設することとしました。清涼飲料水をみなさまにお届けする企業として、自然の恵みである良質な水資源を確保することが重要と考え、林野庁と共同で森林を保全・整備します。森林は、地球温暖化防止に大きな働きをするとともに、地域のみなさまや社員にとって豊かな自然にふれあい、自然と共に生きることを学ぶ場となるでしょう。

CCWJグループは今後も地域社会とともに発展していくことを約束します。そのためには私どもの活動をご理解いただくとともに、みなさまの期待をできるかぎり受けとめたいと考えています。この報告書をご覧いただき、私どもCCWJグループの取り組みについて率直なご意見をいただければ幸いです。

CCWJグループと社会とのかかわり

CCWJグループは、「環境好感度No.1企業」を目指し、

地球温暖化対策 循環型社会の実現 地域貢献活動の推進 の3つの視点のもと、
さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。

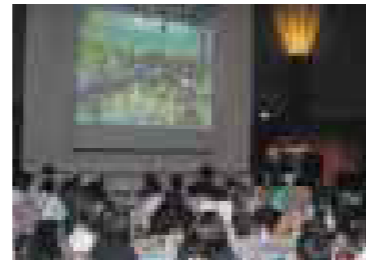


子どもたちに自然の大切さを伝える

CCWJグループでは、次世代を担う子どもたちに自然の大切さを理解してもらうため、学校ビオトープづくり支援などに取り組み、環境教育を推進しています。

ビオトープフォーラムを開催

2005年10月、CCWJグループは福岡市内で「ビオトープフォーラム～ビオトープがつくる小宇宙」を開催しました。これは、2002年から実施している学校ビオトープづくりの支援校が30校を迎えたことを記念して実施されたもので、当日は7県から28校173名の小学生・教員のほか、多くの来賓が参加されました。フォーラムでは千石正一氏の講演や児童による発表、パネルディスカッション等を通じて活発な意見交換や交流がなされ、学校関係者や教育機関から高く評価されました。今後もビオトープづくりを通して豊かな感性を育てていきます。



事例発表



パネルディスカッション

ビオトープフォーラム参加小学校 (順不同)

福岡県／大野北小学校、宇美小学校、花見小学校、志免東小学校、若久小学校、那珂小学校、舞松原小学校、香椎東小学校、大池小学校、高宮小学校、那珂南小学校、堤小学校、飯倉中央小学校、内野小学校、池田小学校、塔野小学校、熊西小学校、志井小学校、若園小学校
佐賀県／高木瀬小学校 長崎県／南串山第一小学校
岡山県／馬屋上小学校、岡南小学校、葦高小学校
広島県／段原小学校、己斐小学校 鳥取県／明徳小学校 島根県／生馬小学校

子どもたちに豊かな原風景の記憶を

財自然環境研究センター 研究主幹 千石 正一氏

生き物が互いにその存在を尊重することによって自然界は成り立ってきました。しかし、人間が「利便性」や「利益」のために行ってきた行為が自然破壊となり、生態系に重大な影響を及ぼしています。子どもたちの記憶に刻まれる原風景が殺伐としたものにならないよう、大人たちは心してかからなければなりません。



千石先生を囲んで

みんなで汗を流し 協力して作り上げたビオトープは最高 福岡県志免町立志免東小学校 児童からのメッセージ

ほくたちはどんなビオトープにしようか、いろいろ意見を出し合い、先生や「おやじの会」の人たちと共に汗を流して作りました。みんなで相談し、協力して「ふれあいビオトープ」と命名し、完成した時の喜びは最高でした。アメンボやメダカを身近で観察することを通して、生命の大切さを学び、仲間とのきずなも深まっています。



ビオトープの観察

“ビオトープづくり支援”に感謝しています 福岡市教育委員会 指導第二部初等教育課 原口 勝氏

児童が身近な自然に意図的に働きかけ、科学的な見方・考え方の育成を図ることが求められている昨今、各学校の自然環境や児童の願いに即した“学校独自のビオトープづくり”を支援していただいている「学校ビオトープづくり支援」に心より感謝申し上げます。今後も、ビオトープを活用した学習成果についての情報交換の場を提供していただければ幸いです。



みんなでビオトープづくり

緑化ふくおかフェアにもビオトープ設置

～人と社会と自然との調和を目指して～

CCWJグループでは、2005年9月9日から11月20日まで福岡市東区の人工島、アイランドシティで開催された「第22回全国都市緑化ふくおかフェア」においても、博多湾の潮の干満を利用したビオトープを設置しています。

また、グループ独自の「地域環境対策積立金」を活用して行政と連携し、清涼飲料水の販売から回収、処理、リサイクルまでを引き続きCCWJグループで行います。これらのことを通じてアイランドシティの目指す「環境共生都市」の実現に貢献しています。



特別仕様の天然ガス車

潮の干満を利用したビオトープ

自動販売機による地域社会への貢献

CCWJグループでは、環境に配慮した自動販売機の導入を進める一方、自動販売機を通じた地域社会貢献にも積極的に取り組み、「支援自動販売機」「災害対応型自動販売機」を展開しています。

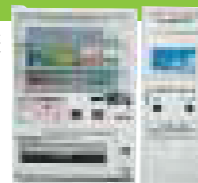
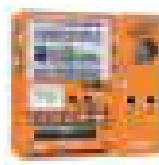
CCWJより全国へ発信

支援自動販売機

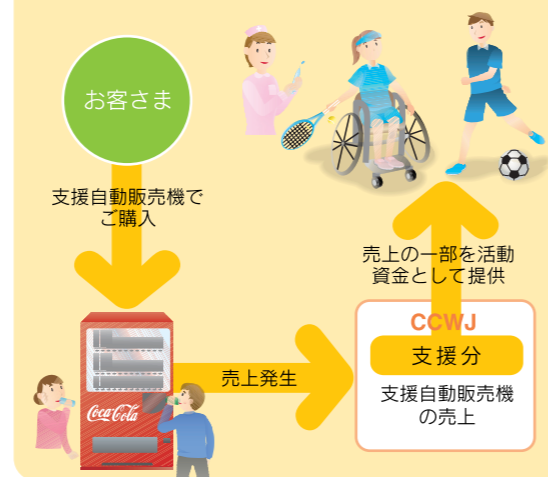
支援自動販売機は、自動販売機の売上の一部を地域の社会貢献事業やイベント、スポーツ団体の活動資金として還元し、お客さまとともに地域活動を支援していくシステムです。CCWJの考案によって始まり、現在はコカ・コーラグループの全ボトラーで展開されています。2005年度には岡山県笠岡市でカプトガニの保全を目的とする、環境をテーマにした支援自動販売機も導入され、累計で405台が活用されています。

主な支援自動販売機

- 環境支援
「笠岡市カプトガニ基金(岡山県笠岡市)」
- 社会事業支援
「日本赤十字福岡支部」



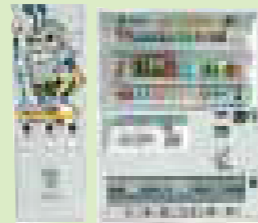
支援自動販売機による地域支援活動の仕組み



支援自動販売機はクラブ運営に大きく貢献

アビスパ福岡 広報・販売促進グループ グループ長 井上 一広氏

当クラブはたくさんの方々の支援を受け、2006年に5シーズンぶりにJ1復帰を果たしました。スポーツを通じて子どもたちに夢と感動を与え、地域の新しいコミュニティづくりと活性化を目指しています。CCWJ社の発案による「アビスパ福岡支援自動販売機」は市の公共施設に設置され、売上の一部はクラブ運営に活用されています。地域に根ざした市民参加のクラブ支援として大いに貢献しています。



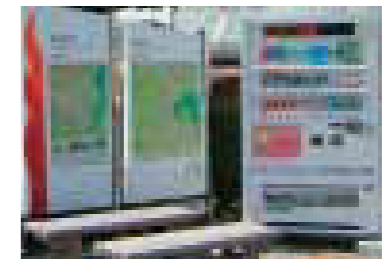
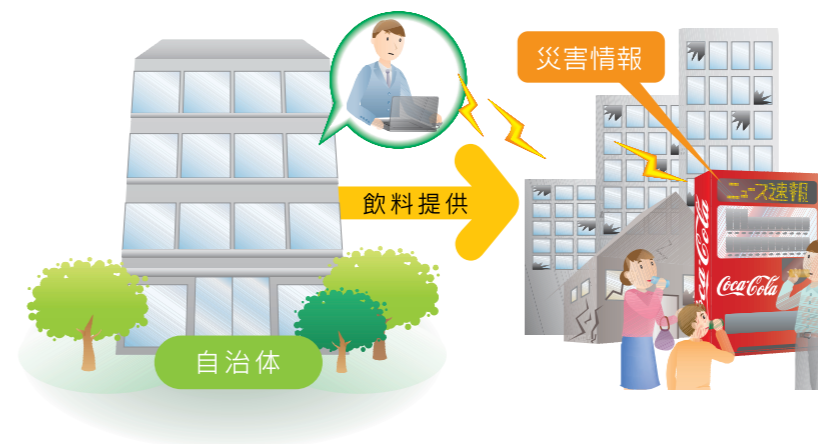
災害時に飲料を無料提供

災害対応型自動販売機

災害対応型自動販売機は、大地震などで上水道が被害を受けた場合、役所など遠隔地からのパソコン操作により清涼飲料水を無料で住民に提供できるシステムです。自動販売機には電光掲示板機能も搭載し、災害時の避難場所、地図情報をリアルタイムで提供します。また住所表示も記載され、現在地の確認もできるようになっています。今後も設置を拡大し、ライフライン復旧までの支援を通じて地域のみなさまの安全、安心な暮らしに貢献します。

2005年の設置状況 累計61台

島根県	32台
鳥取県	15台
山口県	10台
福岡県	4台



設置された災害対応型自動販売機(島根県安来市)



災害時を想定してのデモンストレーション(山口県周防大島町)

環境経営を支えるしくみ

CCWJグループでは、**地球温暖化対策** **循環型社会の実現** **地域貢献活動の推進**

などを達成するためのしくみをグループ一体となって構築しています。

環境マネジメントシステム

CCWJグループ各社は、ISO14001とコカ・コーラ独自の環境マネジメントシステム(eKOシステム)により、事業活動によって生じる環境負荷を削減していく取り組みを行っています。2005年末でグループ8社がISO14001の認証取得を完了しています。なお、CCWJグループの内部監査の実施結果として、環境規制を逸脱して大きな事故に直結するおそれのある管理上の問題点は発見されませんでした。

環境表彰制度

CCWJグループは、環境への効果的な取り組みの推進と環境意識の向上を図るため「環境表彰制度」を導入しています。環境マネジメントシステムと連動して温室効果ガス削減活動を推進しています。

●事業所部門

グループ129拠点を対象に、業務に関連したエネルギー削減に貢献した事業所を表彰しています。2005年度はチェーンストア下関支店が受賞しました。



車両ごとに目標設定

●個人部門

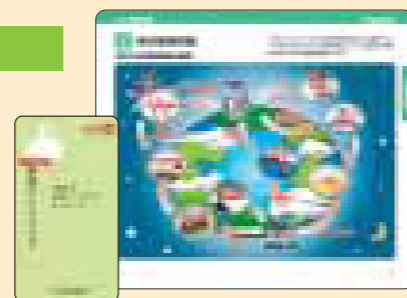
地球温暖化、リサイクルなど身近な環境問題をテーマとした環境ポスターを募集しています。1,405点の応募の中から優秀作品12点を選んで環境推進カレンダーを制作し、全事業所で掲示しています。



環境大賞作品

環境教育

CCWJグループの環境への取り組みをコンパクトにまとめた環境ハンドブックを作成し、全社員に配布。社員の環境意識を高めるとともに、営業にも役立つ教育用ツールとして活用しています。

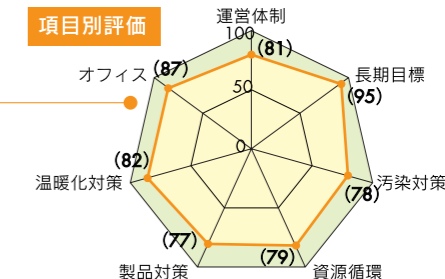


地球環境問題をコンパクトに紹介

CCWJグループの活動に対する社会からの主な評価

「企業の環境経営度調査」 食品部門で第2位

CCWJグループは、中長期的な視点での地球温暖化防止対策、地域環境対策などへの積極的な取り組みが評価され、日本経済新聞社の第9回「企業の環境経営度調査」食品部門で第2位となりました。



世界の6代表ボトラーとして メッセージを発信

CCWJグループの環境推進活動は社内外で高く評価されており、コカ・コーラ(KO)システムの世界環境戦略会議で積極的に提言しています。月1回のメンバーとの電話会議と年2回のフルミーティング(上海・アテネ)に参加し、グローバルな見地から協議を行い、KOシステムの環境分野の発展に大きく寄与しています。



各国代表とのフルミーティング

2年連続 ボトラー最優秀工場の栄誉

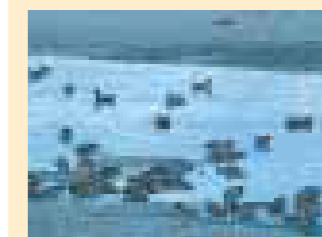
コカ・コーラシステムでの品質表彰において、鳥栖工場が日本にある33工場中、品質・環境・安全衛生の総合評価で第1位となりました。外部審査員を含めた厳正な審査に基づくもので、昨年の基山工場に続きCCWJグループが連続1位を獲得しました。



徹底した品質管理

「福岡市環境基本計画」 推進のバックアップ

「福岡市環境基本計画」の一環である博多湾環境保全策定検討委員会メンバーに、民間企業代表としてCCWJが選出されました。博多湾の水質保全と多様な生物の育成を図るため、他の学識経験者、消費者代表とともに実効性のある提言、情報発信を行っています。



さまざまな生き物が生息する博多湾

CCWJグループの環境負荷と環境保全活動

生産からリサイクルまでの事業活動において、温室効果ガス、廃棄物、水の3つの環境負荷を中心に環境保全活動を行っています。

凡例	このマーク1つが 温室効果ガス50千t-CO ₂	このマーク1つが 廃棄物5千t
このマーク1つが 自販機廃棄台数5千台	このマーク1つが 空容器回収量5千t	このマーク1つが 水使用量1,000m ³

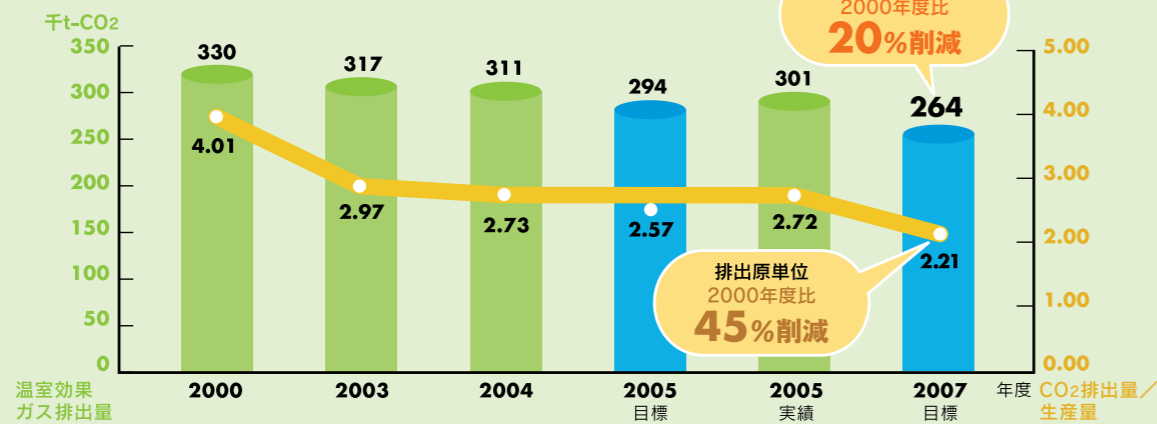
環境負荷	生産	輸送・営業(車両)	営業・メンテナンス(自動販売機)、オフィス	回収・リサイクル
環境負荷	プロダクツ ニチベイ 鷹正宗	CCWJ ビバレッジ ベンディング ロジスティクス	CCWJ ビバレッジ プロダクツ ベンディング カスタマー ロジスティクス ニチベイ 鷹正宗 WJS	CCWJ ビバレッジ ベンディング ロジスティクス
温室効果ガス	天然ガス化などのクリーンエネルギー化を推進しています。 72千t-CO ₂ P16参照	エコドライブ、運行状況チェックなどにより効率的な輸送に取り組んでいます。 23千t-CO ₂ P17参照	省エネ型自動販売機を積極的に投入しています。オフィスではこまめな点灯・消灯や空調管理を徹底しています。 自動販売機 199千t-CO ₂ オフィス 7千t-CO ₂ P18参照	—
エネルギー使用量	購入電力量 42,765千kWh 都市ガス使用量 5,530千m ³ 重油使用量 16,172kℓ 《熱量換算 1,271千GJ》	ガソリン使用量 2,428kℓ 軽油使用量 11,663kℓ 《熱量換算 530千GJ》	自動販売機電力量 419,077千kWh オフィス電力量 12,797千kWh 《熱量換算 4,245千GJ》	—
廃棄物(空容器含む)	リサイクルを進めゼロエミッションを達成しています。 32千t P21~22参照	—	自動販売機廃棄台数 12,890台	北九州さわやかリサイクルセンターなどで再資源化しています。 空容器の自社回収量 23千t P19~20参照
水	用水循環システムにより水資源の保護に取り組んでいます。 4,056千m ³ P23~24参照	—	—	—
その他	資材投入量 85千t NOx(窒素酸化物)排出量 30t 原材料 71千t SOx(硫黄酸化物)排出量 184t	NOx排出量 233t SOx排出量 30t	フロンガスの回収・破壊量 2,641kg	空容器の自社リサイクル量※ 8千t

※北九州さわやかリサイクルセンターでのリサイクル量

温室効果ガス削減

環境問題の重要課題である地球温暖化対策を身近なものとしてとらえ、「温室効果ガス削減計画」を推進しています。

温室効果ガス排出量



※CO₂排出係数は、「温室効果ガス削減計画」の策定時において、該当地域の電力会社から公表されていた2002年度の係数を採用しています。(2004年度の最新係数を用いると、2005年度CO₂排出量は312千t-CO₂となります)
 ※飲料自動販売機の電力消費に伴うCO₂排出量を含めています。 ※原単位=CO₂排出量(kg)/生産量(Uケース) ※1Uケース=約5.68ℓ
 ※2007年度目標値は部門目標値合計に追加施策をした数値となっています。

温室効果ガス削減計画 2005年度実績

部門	削減策	マークの意味
生産部門	鳥栖工場の天然ガス化・コージェネ導入や生産効率アップにより、CO ₂ 排出の削減に向けて大きく前進しましたが、品種構成が変動したため、目標に到達しませんでした。	目標未達成
オフィス部門	こまめな消灯などの取り組みを全グループで行った結果、目標を達成することができました。	目標達成
輸送・営業(車両)部門	運行状況のチェックなどによりエコドライブを徹底、目標を達成することができました。	目標達成
営業(自動販売機)部門	自動販売機の更新台数が当初の見込みを下回り、わずかながら目標に到達しませんでした。	目標未達成

地球温暖化対策

●生産部門の取り組み

環境にやさしい工場へ

鳥栖工場 天然ガス化・コージェネ施設稼働

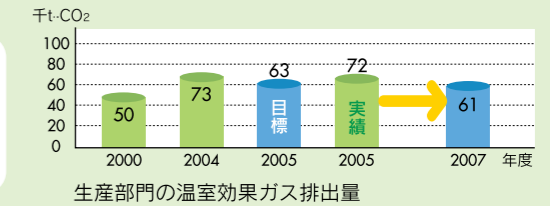
2005年7月、鳥栖工場で天然ガス化およびコージェネレーションシステムを稼働。導入効果としてはCO₂排出量の30%削減のほか、重油使用に伴う失火トラブルの未発生、衛生面のさらなる向上があげられます。2006年度には基山工場でも天然ガス化を行います。本郷工場での天然ガス化も視野に入れて、今後も温室効果ガス削減計画達成に向けて取り組みを加速します。



天然ガスコージェネレーション施設

解説

天然ガス化
 ボイラー燃料をA重油から天然ガスへ転換。天然ガスは燃やしてもSOxが発生せず、CO₂発生量も大幅に削減する環境にやさしいシステム。
コージェネレーションシステム
 排熱を排熱ボイラーで蒸気にかえて有効活用し、燃料を削減するシステム。



生産部門の温室効果ガス排出量

社員のスキルを高める

生産効率向上で省エネ

機械の基礎知識やトラブル時対応についての研修を実施。また、OJTにより各人のスキルアップを図っています。高いスキルにより、ボトラトップレベルのライン効率を実現、省エネに貢献しています。2005年度は故障などのライン停止時間が前年比6.4%削減されました。



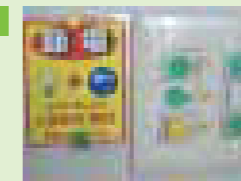
熟練した技術での予防メンテナンス

●オフィス部門の取り組み

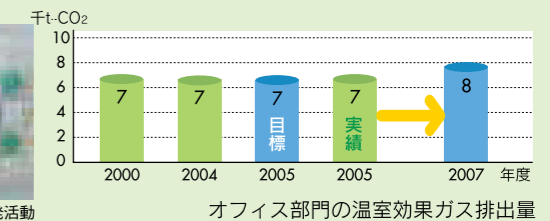
環境意識を高める

社員全員で省エネ努力

昼休みや不使用時のこまめな消灯をはじめ、エアコン使用時の設定温度管理などを徹底し、省エネルギーに取り組んでいます。



オフィスでの意識高揚と啓発活動



オフィス部門の温室効果ガス排出量

温室効果ガス削減
 生産部門・オフィス部門の取り組み

●輸送・営業(車両)部門の取り組み

環境にやさしい安全運転を目指して

「自らカイゼン」を合言葉に安全意識・車両燃費の向上

ロジスティクスでは、大型車両にデジタルタコメーターを装着しています。経済運転、安全運転に関する運転状況のデータ解析をその日のうちにフィードバックすることができ、改善につながる仕組みができています。導入前に比べてエコドライブがさらに徹底され、燃費の12%アップにつながりました。

また、支店の製品配送車両には「セーフティチャレンジャー」を搭載しています。運転状況をリアルタイムにチェックでき、アイドリングや急加速を察知すると音声で注意を促すため、安全運転への意識が高まり、事故ゼロを達成しています。2005年は燃料改質装置を新たに100台導入し、黒煙の排出削減とともに燃費向上に貢献しています。



デジタルタコメーター装着



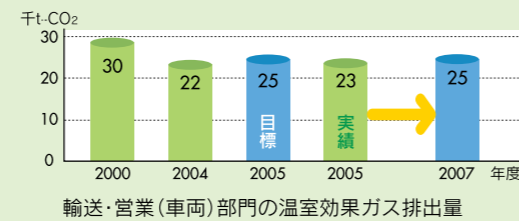
セーフティチャレンジャー搭載

エコカー、低公害車の導入

2005年には天然ガス車3台、ハイブリッド車24台(うち2台はディーゼルハイブリッド車)を新たに導入しました。2008年までに保有車両の25%をエコカー、低公害車にする計画です。



ディーゼルハイブリッド車



●営業(自動販売機)部門の取り組み

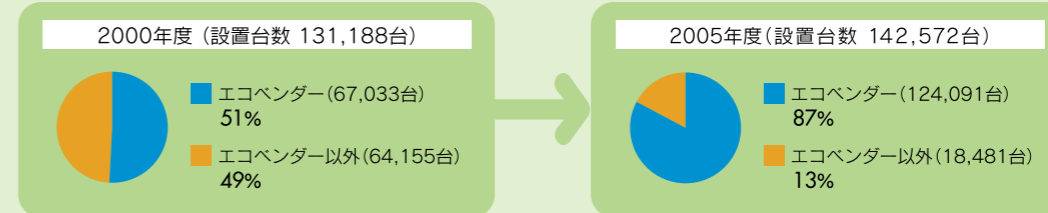
消費電力を大幅に削減

環境配慮型自動販売機の導入を推進

夏場の電力消費ピーク時に電気の使用をカットする「ピークカット機能」や冷却効率が大幅に向上したエコベンダーを積極的に導入しています。2005年に導入した自動販売機は2000年式に比べて消費電力50%削減という高機能です。2006年にはノンフロン型への切り替えも進め、500台の設置を予定しています。また、廃棄となる自動販売機はフロンを回収・破壊するなど、適正に処理しています。



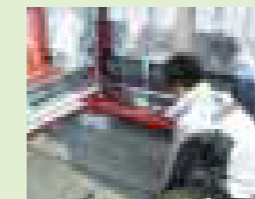
ノンフロン自動販売機



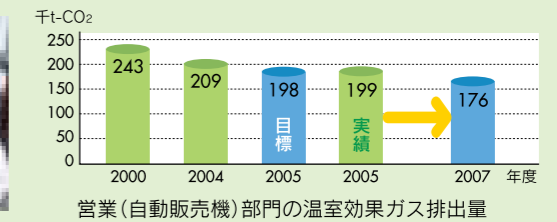
こまめな点検と清掃

自動販売機の省エネに貢献

自動販売機のコンプレッサーなどが汚れていると電気を多く消費します。オペレーション時に定期的に自動販売機を点検・清掃して電気の無駄遣いを防いでいます。さらに、カスタマーは専門的な技術により予防メンテナンスに取り組んでいます。これらのサポート体制で自動販売機の省エネに努めています。



清掃強化活動「レッド作戦」実施中

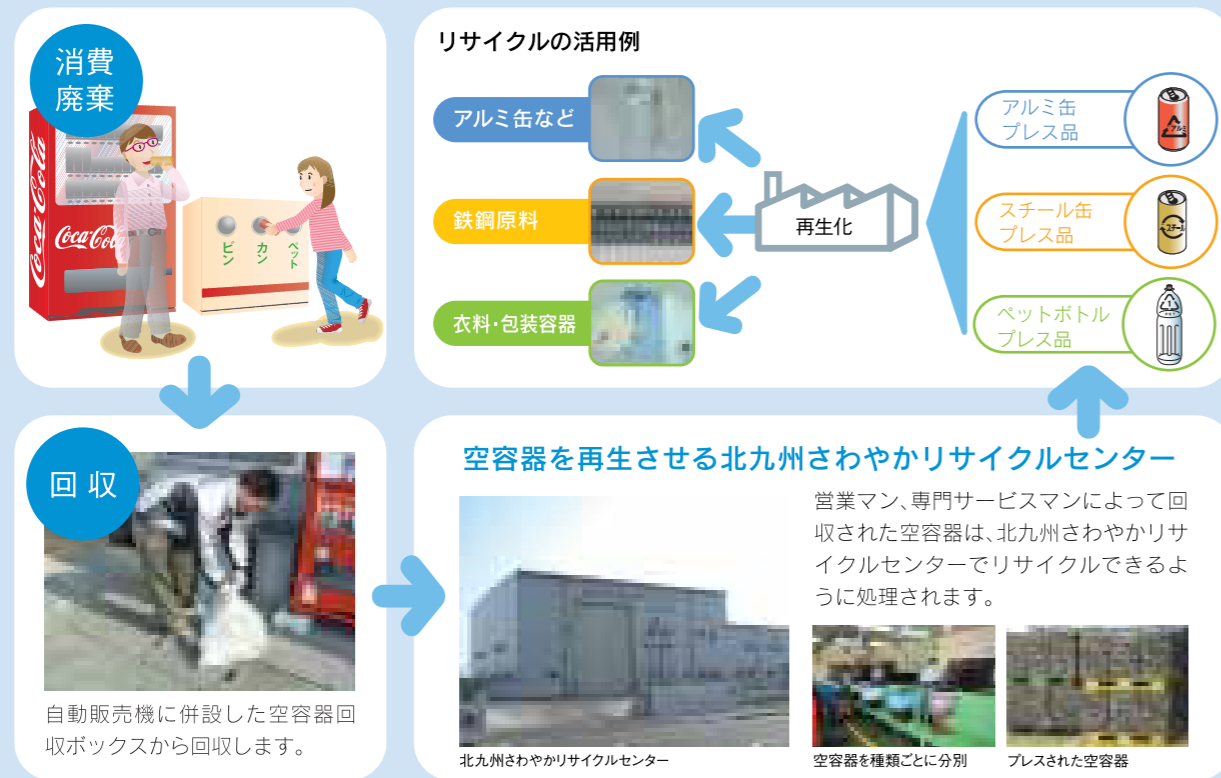


空容器のリサイクル

CCWJグループは、飲料メーカーとして限りある資源を有効活用するため、空容器を自主回収し、再資源化を促進しています。

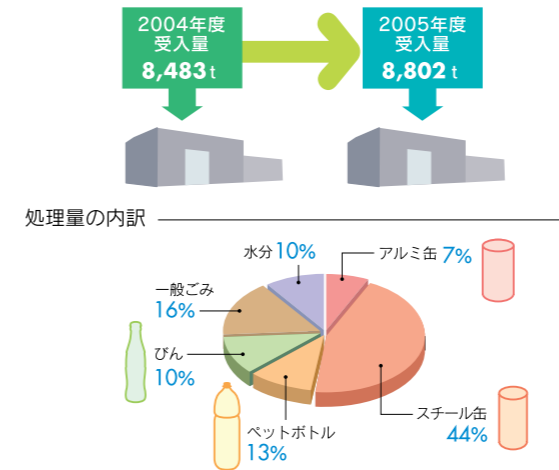
空容器リサイクルの流れ

自主回収した空容器はすべて再資源化されます。



循環型社会の実現

北九州さわやかリサイクルセンターの再資源化実績



支店での衛生管理

支店では回収した空容器を一時的に管理する必要がありますが、消臭・殺菌機能を持つ機器を導入するなど衛生管理にも配慮しています。



衛生管理も万全

みなさまのご協力で ごみ混入の解決へ

北九州さわやかリサイクルセンターには1日に30トンもの回収空容器が運び込まれます。その中には弁当箱やたばこの吸い殻など一般ごみも多く混入しています。より良いリサイクルは確実な分別から始まります。私たちは、みなさまにごみ分別などのご協力をいただき、リサイクル推進に貢献していきたいと考えています。

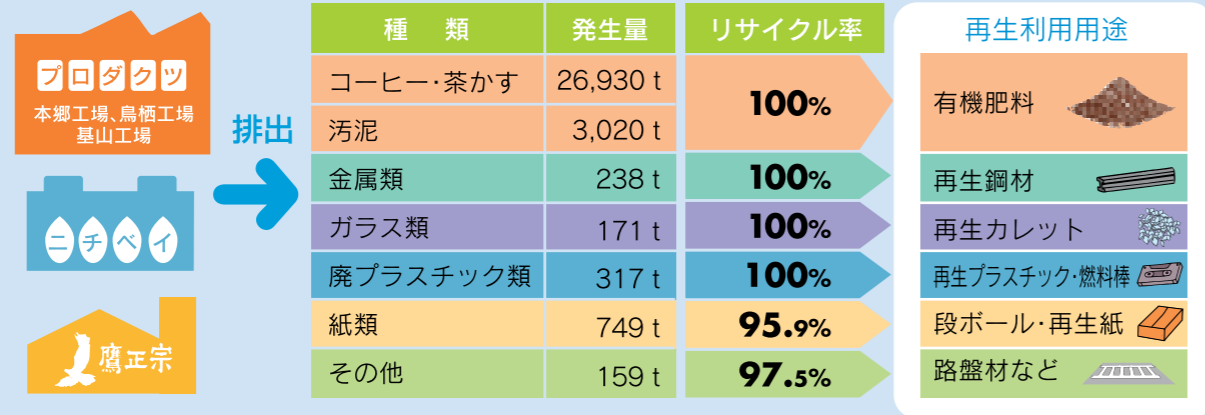


ゼロエミッションへの取り組み

工場では毎日たくさんの廃棄物が発生します。私たちは、『ごみのごみにならない』循環型社会を目指して、廃棄物を再び資源として活用する取り組みを行っています。

工場の廃棄物をリサイクル

循環型社会を目指し、工場で排出される廃棄物のリサイクルに取り組み、生産部門全体でゼロエミッション(全廃棄物のリサイクル率99%以上)を達成しています。
リサイクルされた廃棄物は、さまざまな用途で活用されています。



リサイクル率 **99.9%** ゼロエミッション達成

循環型社会の実現

コーヒーかす・茶かすを新たなエネルギー源に

資源の循環利用を行うにあたってはリサイクルの質も重要です。工場で排出されるコーヒーかすを活用した土壌改良剤を工場見学者に配布しています。また、有機肥料化の将来的な飽和状態の可能性を見すえて、現在、バイオマスによるガス化、固形燃料化を視野に入れてより良いリサイクルシステムを検討しています。



コーヒーかすを活用した土壌改良剤

グリーン購入

グリーン購入も推進

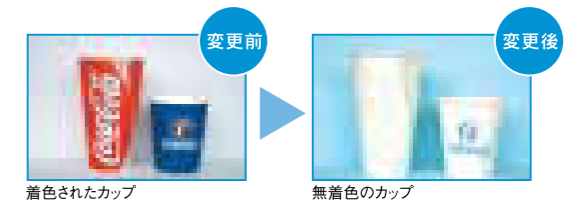
グループで定めた「グリーン調達実施要領」に基づき、OA機器やオフィス家具から、事務用消耗品(紙類・文具類)まで、環境に配慮した製品を優先的に購入しています。

単位:千円

	紙類	文具類	OA機器	被服	オフィス家具	空容器回収箱	合計
グリーン製品購入額	19,430	9,149	37,340	38,546	72,252	37,958	214,675
グリーン購入率	83%	34%	95%	96%	100%	100%	89%

リサイクル性に優れた「環境カップ」導入

CCWJのCVM(カップベンディングマシン)で使用するペーパーカップに、無着色でよりリサイクル性に優れた「環境カップ」を導入しました。ピバレッジでもすでに導入されており、今後は他のカップについても順次拡大展開を検討していきます。



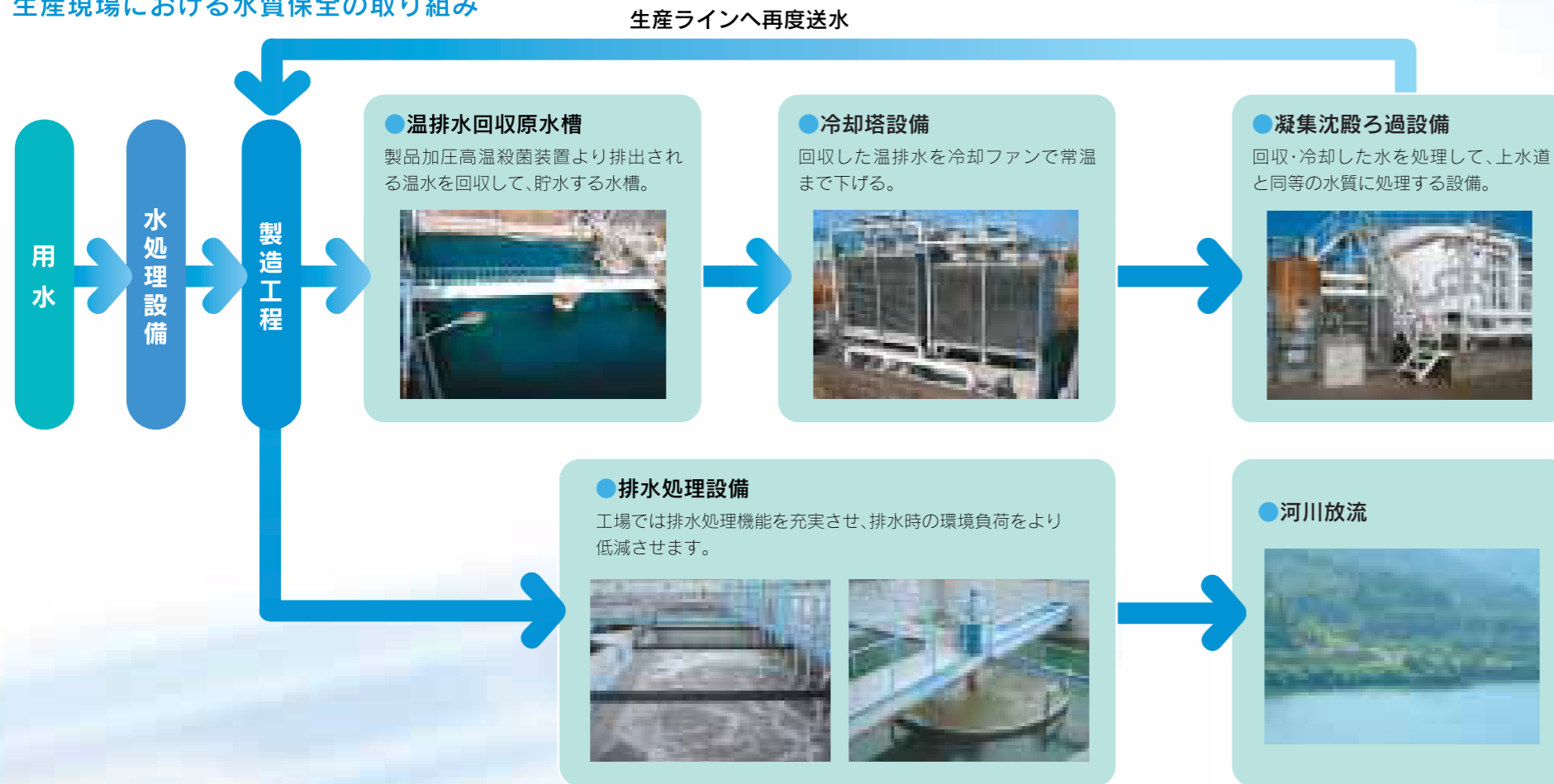
着色されたカップ

無着色のカップ

自然に返す水をきれいに

事業活動において水と深くかかわる飲料メーカーとして、水資源を守り、水質保全へ取り組むことは、当然の責務であると認識しています。

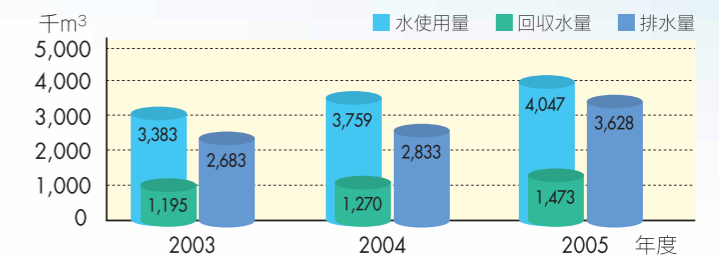
生産現場における水質保全の取り組み



水を大切にしながら繰り返し使用

容器の洗浄水や冷却水などに使用した水を回収し、温度調整や処理を行った後、再利用する水回収システムを活用しています。これにより、2005年度は用水の3分の1を回収し、水資源を節約しました。

水使用量と回収水量・排水量



※2005年度より、排水量に用水取水後の自然放流分を含めています。

水をきれいにしながら自然へ返す

工場からの排水は、高濃度廃液など水質に応じた分別管理を行い、高性能廃水処理による浄化排出によって、高レベルでの法規制遵守を実施しています。

水質測定結果

工場名	放流先	測定項目	規制値	実績値(最大値)
本郷工場	一般河川	COD	50.4mg/l	24mg/l
	一般河川	BOD	29mg/l	15mg/l
鳥栖工場	一般河川	BOD	40mg/l	3.5mg/l
	下水道	BOD	600mg/l	362mg/l
基山工場	一般河川	BOD	30mg/l	10.9mg/l

※COD:化学的酸素要求量 / BOD:生物化学的酸素要求量
※規制値は、放流先によって異なります。

地域貢献活動の推進

「地域環境対策積立金」などをもとに、子どもたちを中心とした環境教育支援のほか、環境美化、緑化などさまざまな地域活動に取り組んでいます。

地域貢献活動の推進

環境教育支援

自然にふれる機会の少ない子どもたちに、自然や環境の大切さを伝える取り組みです。

自然にふれる大切さを学ぶ

学校植林支援

「どんぐりの森をつくろう」をキャッチフレーズに、子どもたちに苗木の里親になってもらい自ら学ぶ自然環境教育活動です。子どもたちが苗木を生長させ、それを山に植樹することで、「CCW」の森の創設と連携した活動となります。



植樹する子どもたち
(佐賀県脊振山)

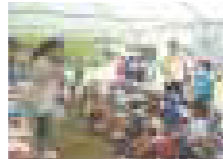


植樹記念プレート

景観保護と環境啓発

赤とんぼの街づくり運動

子どもたちに自分が住む街の絵を描いてもらうことで街の良さを知り、好きになってもらい、景観の保全に役立てていくことを目的としています。教育委員会や自治体、地元テレビ局と協力して行う環境啓発活動です。

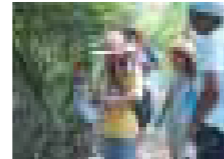


ペットボトルリサイクルデモ(倉敷市)

体験しながら環境を考える

コカ・コーラエコサイエンス

子どもたちを対象に、山野の樹林、昆虫などを教材に自然について学び、地球環境を考える機会を提供する体験学習です。2005年度は福岡県直方市と島根県出雲市で開催され、70名の小学生が参加しました。



自然の中での観察

地域美化活動

職場や営業エリアを取り巻く身近な環境の美化に取り組んでいます。

毎月8日は全員で清掃

コカ・コーラクリーンデー

CCWグループでは、毎月8日を「コカ・コーラクリーンデー」と定め、グループの全事業所で周辺の道路・公共場所の清掃活動を実施しています。地域社会と歩む企業としての感謝の気持ちを込め、清掃活動を通じた社会貢献を行っています。



公共場所の清掃



事業所周辺の清掃

全国規模の美化活動

ラブアース・クリーンアップ

環境省が後援して毎年6月に開催される地域環境美化活動「ラブアース・クリーンアップ」には、CCWグループも趣旨に賛同して、社員とその家族に参加を呼びかけています。2005年度は広島市や福岡市などで約800名が参加しました。



福岡市












広島市

環境会計

CCWJグループでは、環境経営を評価し改善していくために事業活動ごとの環境会計を導入しています。環境保全活動に投入された費用と効果を下表にまとめました。表中の参照ページにおいて、より詳細な取り組み内容を記載しています。

【集計・開示について】

対象範囲	CCWJ、ピバレッジ、プロダクツ、ペンディング、カスタマー、ロジスティクス、ニチベイ、鷹正宗、WJS
対象期間	2005年1月1日～2005年12月31日
参考ガイドライン等	環境保全費用・経済効果の把握方法等については環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考にしています。ただし、表示分類は環境保全活動をより深く理解していただけるよう事業活動を軸として分類しています。

事業活動	環境負荷	環境保全の取り組み	環境保全費用 (千円)	経済効果 (千円)	環境保全費用、経済効果の内容	環境保全効果	参照ページ
生産	温室効果ガス 	天然ガス燃料転換(鳥栖工場) コージェネレーションシステム運用(本郷・鳥栖工場)	30,587	195,876	排熱回収による、ボイラー重油使用量の削減 契約電力デマンドカット	天然ガス化、コージェネレーション導入による CO ₂ 排出削減量 6,721 t-CO ₂	P16
		エネルギー監視システム運用	35,142	—	エネルギー監視システムに関わる減価償却費		
		省エネ型照明への転換	11,281	6,691	省エネ型照明設備に関わる減価償却費、 電気使用量節約額	省エネ型照明導入によるCO ₂ 排出削減量 318 t-CO ₂	
	廃棄物 	廃棄物のリサイクル(ゼロエミッション)	121,936	4,640	廃棄物処理(リサイクル)に関わる費用 有価物(リサイクル)売却金額	リサイクル率 99.9 %	P21～22
	水 	水資源の効率的利用(用水循環システム)、排水処理活動	296,614	103,814	排水処理に関わる設備の減価償却費、運転経費(処理薬品費用、人件費等)、 下水道使用料、用水循環システムに関わる水購入費用節約額	用水回収使用量 1,473 千m ³	P23～24
その他	環境負荷監視(排ガス・排水測定)、汚染負荷量賦課金	40,302	—	アスベスト処理費用、排ガス・排水測定業務委託費用 汚染負荷量賦課金	環境負荷の監視	—	
輸送・営業(車両)	温室効果ガス 	ハイブリッド車、天然ガス車、LPG車の導入	28,283	12,468	エコカー導入に関わる減価償却費 エコカー導入に関わる燃料節約額 燃料改質装置購入費用及び燃料節約額	エコカー導入によるCO ₂ 排出削減量 49 t-CO ₂ 燃料改質装置装着によるCO ₂ 排出削減量 292 t-CO ₂	P17
		燃料改質装置の装着					
営業・メンテナンス (自動販売機)	廃棄物 	廃自動販売機の適正処理 フロン回収・破壊処理	57,198	—	廃自動販売機処理費用 (フロン回収・破壊費用を含む)	フロンガスの回収・破壊量 2,641 kg	P18
回収・リサイクル	廃棄物 	北九州さわやかリサイクルセンター運用	289,958	189,528	リサイクルセンター、リサイクルステーションに 関わる減価償却費、運営費用	空容器の自社回収量 23,105 t 空容器の自社リサイクル量※ 8,144 t	P19～20
		回収空容器処理委託、フレッシュネス	675,151	—	空容器処理委託費用	空容器のリサイクル、フレッシュネス管理	
環境マネジメント	温室効果ガス 	社員環境教育、環境表彰制度	35,481	—	環境教育、環境表彰制度に関わる費用 (人件費を含む)	グループでの延べ教育時間 社員の意識向上 22,528 時間	P11
		環境マネジメントシステム構築・運用、環境コミュニケーション	51,623	—	ISO14001構築・運用に関わる費用(人件費を含む) 環境広報に関わる費用		
社会貢献活動	水  その他 	地域環境対策積立金を活用した活動	18,470	—	環境教育支援費用(ピオトープ設置・維持等)	ピオトープを設置した小学校 10 校	P7～8
		コカ・コーラクリーンデー、コカ・コーラエコロジースクール等	68,931	—	地域美化活動費用(人件費を含む)	地域美化活動等への参加	P25～26
合計			1,760,957	513,017			

※北九州さわやかリサイクルセンターでのリサイクル量

独立第三者の審査報告書



CCWJグループは、事業活動全体における環境負荷の実態を踏まえた上で取り組むべき環境保全活動を明確にされています。2005年度は、温室効果ガス削減計画の達成に向けて、生産現場での効率アップや天然ガス化・コージェネ導入、効率的輸送のさらなる徹底などが見られました。単年度の目標にはわずかに到達しなかったものの、中期目標としての2007年度目標達成に向けて大きな前進があったと考えます。結果の分析を今後を生かし、全員参加の自主的かつ積極的な取り組みがさらに加速されることを期待しています。

あずさサスティナビリティ株式会社 取締役 福島隆史

環境パフォーマンス指標算定基準・環境会計指標算定基準

1.対象期間

2005年1月1日～2005年12月31日

2.対象組織

CCWJ、ピバレッジ、プロダクツ、ベンディング
カスタマー、ロジスティクス、ニチベイ、鷹正宗、WJS

3.環境パフォーマンス指標算定基準

環境パフォーマンス指標	単位	算定方法	
投入			
資材投入量	千t	生産活動に伴う包装資材の年間投入量	
原材料投入量	千t	生産活動に伴う原液・コーヒー・ミルク類の年間投入量	
水資源投入量	千m ³	生産活動に伴う上水・井水・工業用水年間使用量	
排出	CO ₂ 排出量	化石燃料	(各燃料年間使用量×CO ₂ 排出係数*) *A重油 2.710t-CO ₂ /kℓ ガソリン 2.32t-CO ₂ /kℓ 軽油 2.62t-CO ₂ /kℓ 都市ガス 2.108t-CO ₂ /千m ³ N
		購入電力	年間購入電力量×CO ₂ 排出係数* *[温室効果ガス削減計画]の策定時において 該地域の電力会社から公表されていた 2002年度の係数を採用
	廃棄物排出量	千t	有価物+廃棄物
	空容器回収量	千t	北九州さわやかリサイクルセンターでの 回収実績+(中国地区での販売量× 北九州さわやかリサイクルセンターでの回収率)

化学物質について、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」にもとづく届出対象化学物質の取り扱いはありませんでした。

4.環境会計指標算定基準

環境保全費用	<ul style="list-style-type: none"> ●環境保全に貢献する設備の財務会計上の減価償却費 ●環境保全に貢献する設備の維持運営費 ●環境教育など環境保全活動に関わる人件費 ●環境保全活動に関わる諸経費 <p>[複合コストについて] 原則的には差額集計とするが、差額が明確に判別できない場合は按分集計、簡便集計を行う。</p>
経済効果	環境保全活動に伴う収入額・節減額
物量効果	環境保全活動を実施しなかった場合と比較した物量指標

環境保全活動への取り組み

	<ul style="list-style-type: none"> ●コカ・コーラウエストアジアグループの動き(青色) ●世界と日本の動き(黒色)
1992年	エコリサイクルステーション導入(中国エリア) 環境と開発に関する国連会議(地球サミット)開催
1993年	ラブアース・クリーンアップ参加
1994年	コカ・コーラ環境教育財団が設立され、加盟/環境配慮型自動販売機導入
1996年	ISO14001環境マネジメントシステム制定
1997年	空缶選別プレス車テスト導入/エコペンダーの導入 気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)開催
1998年	環境対策室を設置/環境委員会を設置/環境宣言を発表/コカ・コーラ クリーンデーを開始/ゼロエミッション達成(本郷工場・鳥栖工場・基山工場)
1999年	全工場でISO14001認証取得/地域環境対策積立金活動を開始 改正省エネ法施行
2000年	CCWJ本社部門でISO14001認証取得/環境報告書の発行 エコルート導入(福岡市) 環境会計ガイドライン発表 容器包装リサイクル法完全施行 循環型社会形成推進基本法制定 食品リサイクル法制定 改正廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行
2001年	グリーン購入ガイドラインの制定/ISO14001認証取得(ロジスティクス一部) 環境報告書ガイドライン発表
2002年	環境会計を導入(環境報告書で開示)/エコルート導入(長崎市) 持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)開催 日本が京都議定書批准
2003年	ISO14001認証取得の拡大 (CCWJ営業所部門・ベンディング全事業所・カスタマー一部) 本郷工場コージェネ稼働 北九州さわやかリサイクルセンター竣工および運営開始 環境報告書の第三者審査受審/eKOシステムの導入 第3回世界水フォーラム開催
2004年	温室効果ガス削減計画策定/環境表彰制度の導入 平成16年度福岡市環境保全功労者賞受賞 コカ・コーラ環境カウンスル(CCEC)に選出 ISO14001認証取得の拡大(ピバレッジ全事業所・WJS全事業所) CCWJグループさわやかエコドライブの取り組みを開始 CCWJグループグリーン調達実施要領の制定 ロシアが京都議定書批准 ISO14001規格改訂
2005年	ピオトップフォーラムの開催 ISO14001認証取得の拡大 (ニチベイ、ロジスティクス全事業所、カスタマー全事業所) 鳥栖工場 天然ガス化・コージェネ稼働 第9回「企業の環境経営度調査」食品部門で2位 博多湾の環境保全策定検討委員会メンバーに選出 京都議定書発効

地球温暖化対策

循環型社会の実現

地域貢献活動の推進

すべての実現を目指した「CCWJの森」



地域と自然との共生「CCWJの森」の創設

CCWJグループは、自然の恵みであるかけがえのない「水」を利用する事業者として、水源涵養(かんよう)林の安定育成、社員環境教育の場としての活用などを目的に2006年4月に「CCWJの森」を創設し、国有林の整備に参画します。また、地域のみなさまへも開放することで、ふれあいの場として活用し、地域と自然が共生する社会の形成に取り組めます。

ご意見・ご感想は、下記までお聞かせください。

コカ・コーラウエストジャパン株式会社 CSR統括部 環境推進部 〒812-8650 福岡市東区箱崎七丁目9番66号
TEL 092-641-9118 FAX 092-641-9128 ホームページ <http://www.ccwj.co.jp/>

